

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 27 年 8 月 6 日 (2015.8.6)

【公開番号】特開 2014-127037 (P2014-127037A)  
 【公開日】平成 26 年 7 月 7 日 (2014.7.7)  
 【年通号数】公開・登録公報 2014-036  
 【出願番号】特願 2012-283490 (P2012-283490)  
 【国際特許分類】

G 0 6 F 21/60 (2013.01)

【 F I 】

G 0 6 F 21/24 1 6 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 6 月 17 日 (2015.6.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数のデータブロックを有する第 1 のデータブロック群に対する処理命令群であって、当該処理命令群を適用後の前記第 1 のデータブロック群が匿名化される処理命令群を順次受信し、

前記第 1 のデータブロック群に未適用の第 1 の処理命令群が所定の条件を満たす場合は、当該第 1 の処理命令群を前記第 1 のデータブロック群に適用し、

前記第 1 の処理命令群が前記所定の条件を満たさない場合は、当該第 1 の処理命令群を保持する、

処理を、コンピュータに実行させる情報処理プログラム。

【請求項 2】

前記所定の条件が、

前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令の数が第 1 の閾値以上であるという第 1 の条件、前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令のうち隠蔽又は復元の処理命令の数に対する、前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令の数の割合が第 2 の閾値以上であるという第 2 の条件、又は前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令のうち隠蔽又は復元の処理命令以外の処理命令の数が第 3 の閾値以上であるという第 3 の条件を含む

請求項 1 記載の情報処理プログラム。

【請求項 3】

前記所定の条件が、

前記第 1 の処理命令群が隠蔽又は復元の処理命令と隠蔽又は復元の処理命令以外の処理命令とを両方含むという第 1 の条件、又は前記第 1 の処理命令群が隠蔽又は復元の処理命令を含まないという第 2 の条件を含む

請求項 1 記載の情報処理プログラム。

【請求項 4】

前記第 1 の処理命令群を保持する処理において、

前記第 1 の処理命令群が前記第 1 の条件及び前記第 2 の条件を満たさない場合、前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令の数が第 1 の閾値以上であるという第 3 の条件、前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令のうち隠蔽又は復元の処理命令の数に対する、前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令の数の割合が第 2 の閾値以上であるという第 4 の条

件、又は前記第 1 の処理命令群に含まれる処理命令のうち隠蔽又は復元の処理命令以外の処理命令の数が第 3 の閾値以上であるという第 5 の条件が満たされるか判定し、

前記第 3 の条件、前記第 4 の条件、又は前記第 5 の条件が満たされる場合、前記第 1 の処理命令群を前記第 1 のデータブロック群に適用し、

前記第 3 の条件、前記第 4 の条件、及び前記第 5 の条件が満たされない場合、前記第 1 の処理命令群を保持する、

請求項 3 記載の情報処理プログラム。

【請求項 5】

複数のデータブロックを有する第 1 のデータブロック群に対する処理命令群であって、当該処理命令群を適用後の前記第 1 のデータブロック群が匿名化される処理命令群を順次受信し、

前記第 1 のデータブロック群に未適用の第 1 の処理命令群が所定の条件を満たす場合は、当該第 1 の処理命令群を前記第 1 のデータブロック群に適用し、

前記第 1 の処理命令群が前記所定の条件を満たさない場合は、当該第 1 の処理命令群を保持する、

処理を、コンピュータが実行する情報処理方法。

【請求項 6】

複数のデータブロックを有する第 1 のデータブロック群に対する処理命令群であって、当該処理命令群を適用後の前記第 1 のデータブロック群が匿名化される処理命令群を順次受信する受信部と、

前記第 1 のデータブロック群に未適用の第 1 の処理命令群が所定の条件を満たす場合は、当該第 1 の処理命令群を前記第 1 のデータブロック群に適用する適用部と、

前記第 1 の処理命令群が前記所定の条件を満たさない場合は、当該第 1 の処理命令群を保持する保持部と、

を有する情報処理装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本技術に係る情報処理方法は、複数のデータブロックを有する第 1 のデータブロック群に対する処理命令群であって、当該処理命令群を適用後の第 1 のデータブロック群が匿名化される処理命令群を順次受信し、第 1 のデータブロック群に未適用の第 1 の処理命令群が所定の条件を満たす場合は、当該第 1 の処理命令群を第 1 のデータブロック群に適用し、第 1 の処理命令群が所定の条件を満たさない場合は、当該第 1 の処理命令群を保持する処理を含む。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

また、ターゲットシステム 4 は、DB 4 a 及び処理実行部 4 b を有しており、ネットワーク 9 1 を介して情報処理装置 100 から処理命令を受信すると、処理実行部 4 b は、DB 4 a に対して処理命令を実行する。また、ターゲットシステム 5 は、DB 5 a 及び処理実行部 5 b を有しており、ネットワーク 9 1 を介して情報処理装置 100 から処理命令を受信すると、処理実行部 5 b は、DB 5 a に対して処理命令を実行する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 4 6 】

匿名化処理部 1 1 0 は、上で述べた ( a ) 基本的な匿名化処理を実行する。そして、匿名化処理部 1 1 0 は、匿名化処理の処理結果と当該処理結果を反映させる処理内容とを含む処理命令を、処理命令制御部 1 2 0 に出力する。処理命令制御部 1 2 0 は、データ格納部 1 3 0 に処理命令を一時的に保管した上で、処理命令の出力タイミングを判断して、適切なタイミングにて処理命令を、ターゲットシステム 4 及び 5 に出力する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 6 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 6 4 】

ターゲットシステム 4 及び 5 の処理実行部 4 b 及び 5 b は、情報処理装置 1 0 0 から受信した処理命令群を順番に D B 4 a 及び 5 a に対して実行する。そうすると、図 2 0 の例では、図 2 3 に示すようなデータが、D B 4 a 及び 5 a に蓄積されるようになる。図 2 3 でも、センシティブ情報は省略されている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 0 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 0 5 】

さらに、上記判断する処理が、第 1 の条件及び第 2 の条件を満たしていない場合、出力前の処理命令の数、出力前の処理命令のうち第 1 の種類の処理内容を含む処理命令の割合の逆数、又は出力前の処理命令のうち第 1 の種類とは異なる第 2 の種類の処理内容を含む処理命令の数が、閾値以上であるか否かを判断する処理をさらに含むようにしても良い。このようにすれば、データ更新の即時性と個人識別可能性の抑制とをバランスさせることができるようになる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 1 5 】

( 付記 7 )

所定の関係を有する複数のデータブロックが存在するか否かに基づき実行される匿名化処理がなされたデータブロックを格納するデータ格納部に格納されているデータブロックに対する処理命令であって、前記匿名化処理の処理結果と当該処理結果を反映させる処理の内容とを含む 1 又は複数の処理命令を取得する取得部と、

取得された前記 1 又は複数の処理命令を含む出力前の処理命令が所定の条件を満たしているか判断する判断部と、

前記所定の条件を満たしている場合には、前記出力前の処理命令を出力する出力部と、を有し、

前記所定の条件を満たしていない場合には、前記出力前の処理命令が保持される情報処理装置。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】図 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3 0】

